

# The Challenge of Dentsu Team Diversity

Yoji Yokoyama  
Dentsu

# Public Relation Strategy of the MOE

## ■ Campaign Slogan

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

## ■ Examples



Eco-product Exhibition 2009

## ■ COP 10 LOGO



Life in harmony, into the future  
COP10 MOP5 AICHI-NAGOYA 2010



Oct. 14 2009

Yomiuri  
Newspaper

## ■ Life-On Earth Supporters By Celebrity



My Action Declaration Ceremony (Feb. 24 2009 Dentsu Hall)

## ■ COP10 Honorary Ambassador



# Media Campaign By Nikkei Newspaper

## ■ Bio-Diversity Advertorial (May. 22 2009 4Pages)



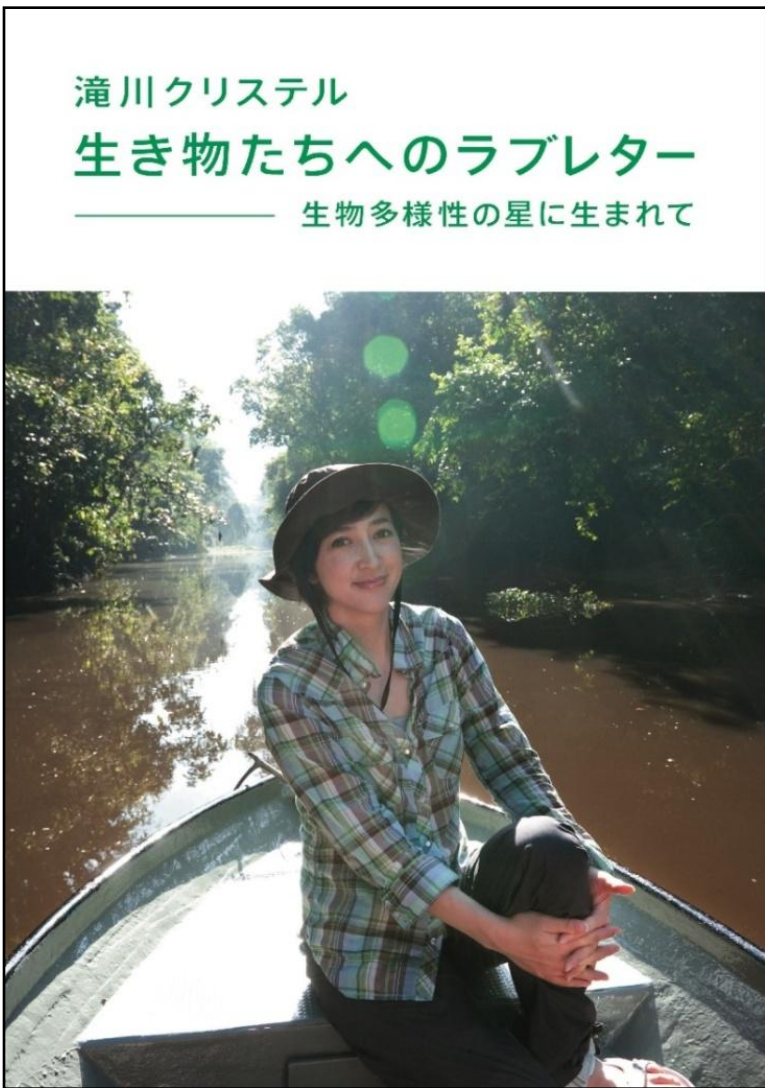
## ■ TEEB Advertorial (Sep. 30 2010 2Pages)



## ■ COP10 Special Section



## Love - letter to the life-on earth



滝川クリステル  
生き物たちへのラブレター  
—— 生物多様性の星に生まれて

Oct.8 2010

対談 3 「生物多様性を失った先にあるもの」



アフメッド・ジョグラフ



滝川クリステル

×

生物多様性に関する国際協力は、WIN-WIN。

滝川 穏やかな質問で動線ですが、生物多様性を国際社会が協議して保全しなければならぬのはなぜでしょうか？

ジョグラフ 地球という距離は私たちがすべてを食むひとつのシステムであり、船のようなものです。航海を続けているこの船がもし沈んだら、私たちはみんな一緒に沈んでしまいます。生物多様性を守るのには、地球上のすべての命を守るための挑戦です。それは、1か国だけではできません。国際社会が協議していくことが必要です。国の大きさや、国力、技術力には関係ありません。他の国の協力なしにこの大きな問題を解決することはできないからです。

他の国に比べてより深刻な被害を受ける国もあるでしょう。いつものことですが、貧しい国や発展途上国が先に被害を受けやすくなるのです。ですから新しい国際協力の関係に基づき、世界の結束を図る必要があります。新しい国際協力というのは、一方的な援助のことでは

ありません。貧しい国を助けるのはチャリティーで助けてあげることと考える人もいますが、私たちが、じつはアマゾンやコンゴといった遠い国で起こっている問題、すなわち森林が破壊されている、水がなくなっている、そういう問題は私たちがすべてにかかわってきています。コンゴの生物多様性を守るためにコンゴ川流域を保全することは自分たち自身を守ることもでもあります。私たちが暮らす、養育を必要としているのです。

また、海を守ることに協力することによって自分たちを守ることもになります。海洋生物だけでなく、海や海岸の生物に依存して生活している人が30億人います。さらに海は、世界中で排出されたCO2の約30%を吸収しています。

そして大事なことは、手段を持っている国、たとえば日本のように技術、科学知識、お金、そういったものを持っている国が生物多様性には富みであるべきで、積極的に貧しい国を助けることにより、両者がWIN-WINの関係を探ることがあることです。ある国は生物多様性を守る能力がなく、ときにはそれを譲ってしまうこともあり



Short Interview

TEEB、生物多様性の経済価値を可視化するプロジェクト



パヴァン・スクデフ



滝川クリステル

×

パヴァン・スクデフ

TEEBプロジェクトのコーディネーター、国連環境計画 (UNEP) 「グリーン経済」イニシアチブのディレクター、ロンドン・ドクメンツ・グループのマーケティング・ディレクター兼常務理事、国際フォーラム・サステイナビリティ・センターのメンバーの役員を歴任後、現在環境活動。

生物多様性が急激に失われ続けている理由のひとつは、その価値が多面的で、簡単に数量に置き換えられず、政府にも民間にも計測できないからではないでしょうか。生物多様性の経済的価値を数値化し、世界経済に組み込めるようにしようという試みに、国連環境計画 (UNEP) が進めているTEEBというものがあります。TEEBの研究リーダーを務めるスクデフ博士に、TEEBの目標とその意義をうかがいました。

自然はただ、はもう通用しない。

TEEBとはThe Economics of Ecosystems & Biodiversity、「生態系と生物多様性の経済学」、生物多様性の経済価値を分析し、金額に置き換えて、対策の必要性を世界各所に理解してもらうための報告書です。地球温暖化問題においては、英国の経済学者ニコラス・スターン氏がまとめた「気候変動の経済学」(通称「スターン・レビュー」)が画期的な議論に大きな影響を与えましたが、TEEBはその生物多様性版ともいわれています。

たとえば熱帯雨林が伐採され、湿地などが破壊されると、気候調節機能の低下、食料や木材の減少、医薬品の原料となる遺伝資源の減少、水の浄化作用低下などが引き起こされます。

同様に環境機が失われた場合、津波などの影響が緩和されなくなる。観光資源が失われる。そこに生息する魚介類の食品や装飾品としての価値が失われるなどの影響があります。

損失額は、世界金融危機よりも大きい。

TEEBでは、これらの損失を金額に換算し合計すると、全世界で年間2兆~4兆5000億ドルの経済損失が出ていてと指摘。2008年の世界金融危機での金融資産の損失は約2兆~3兆ドルといわれていますが、それに匹敵する数字です。

2005年と定められた2010年までに生物多様性の損失速度を著しく減少させたいという目標は達成できませんでした。しかしTEEBは、2020年を目指した「ポスト2010年目標」達成のための指標を提供します。もうひとつのTEEBの目的は、GDPに自然の価値を加える方法を示すことです。金融資本、人的資本、社会資本、自然資本などさまざまな資本が人間には不可欠です。人間が享受できる富と健康をGDPだけで測ることはできないのです。



# CSR activity On BioDiversity

Advertising V o l . 17  
「BioDiversity and  
Business」  
(March 2008)



2nd IAA-Dentsu Global Student  
Poster Competition  
(2009~2010)



Dr. Amed Djoghlaif  
Speeches In Dentsu Hall  
(Mar.2 2010)

